

開講年度	2023年度	開講学期	後期
科目名	事業運営の基礎知識	授業種別	講義
科目名（英語）	Management of enterprise and business activities		
授業情報(授業コード・クラス・授業形態)	A1000001 事業運営の基礎知識 [全][対面]		
担当教員	玉川 雅之		
単位数	2.0単位	曜日時限	木曜3限
キャンパス	新宿	教室	A-0652教室

学位授与の方針	<p>1 基礎知識の修得 40%</p> <p>2 専門分野の知識・専門技術の修得 0%</p> <p>3 汎用的問題解決力の修得 0%</p> <p>4 道徳的態度と社会性の修得 60%</p>
具体的な到達目標	<p>1 事業とはどのようなものか、技術やものづくりとどのような関係になるのか、事業を成功させるためにはどのようなことが必要なかを考察・理解を理解する上で有用な基本コンセプトやキーワードを習得する。</p> <p>2 事業の状態や成果を正しく観測するために必要な会計（アカウンティング）の基礎概念を理解し、財務諸表の作られ方、読み方についても馴染めるようにする。</p> <p>3 事業の行う上で必要になるお金（マネー）の意義や、その使い方、調達方法（ファイナンスあるいは財務）の基礎概念を理解する。</p> <p>4 競争的な環境の下で事業を存続させ、成功させていく上ではどのようなことが重要か、「勝つための戦略」としてどのようなことが論じられてきているかについて理解する。</p> <p>5 不確実性を伴う環境の下で事業を行う上で向き合わなければならない「リスク」とその賢明な対応方法について理解する。</p> <p>6 事業の発展に好循環をもたらし、また停滞や悪循環を生じさせる構造的な要因をビジネスモデルとしてとらえ、事業戦略を考察する上での基本コンセプトとして理解し、活用できるようにする。</p> <p>7 日本経済・企業をとりまく19世紀や20世紀の事業環境から大きく変貌しつつある21世紀型の環境のもとの事業活動の在り方、とくに日本の企業が比較優位を発揮している分野と考えられる21世紀型ものづくりの特徴や今後のチャレンジについて理解する。</p> <p>8 事業を営む上で必要な組織のあり方、そのために発揮されるべきリーダーシップのあり方について理解するために必要な基本コンセプトを解説し、諸君が今後のキャリアデベロップメントを展望する上での参考となるようにする。</p> <p>9 キーワードについては、英語でどう表現するかについても紹介するので馴染んでほしい。</p>
受講にあたっての前提条件	事業経営に関心を持っていること。
授業の方法とねらい	<p>&lt;授業のねらい&gt;</p> <p>本授業の副題は「21世紀型 工学（エンジニア）のための事業の運営（経営）に役立つ会計、ファイナンス、経営学（論）の基礎知識」です。</p> <p>工学院大学は「21世紀型 ものづくりの先端で、創造・発信し、事業・実務でリードできる人材（21世紀型 工学）の育成」をビジョンに掲げていますが、「ものづくり」など理工系の知識・技術を生かして事業に参加し、社会で活躍しようとする工学院大学の学生に焦点を合わせて、事業を実際に運営し、成功させていく上で有益と考えられる会計、ファイナンス、経営戦略、リスク管理などについての基礎知識を習得できるようにするとともに、基本的な概念（キーコンセプト）やそれらを使った思考方法に馴染めるようにするための授業です。</p> <p>工学院大学で専攻する科学技術や工学の知識、スキルを経済社会の中で生かしながら、そのためのプロジェクトや事業に積極的に携わり、成功させたいと思う方を歓迎します。</p> <p>会計・ファイナンスや経営学の予備知識は必要としませんが、数的処理や計算にも慣れている理工系の学生が習得しやすい学問でもある会計・ファイナンスや経営学を将来さらに学んでいきたいと考える方や工学に内在するアプローチの一つであるシステムデザイン思考を経済・経営に適用したいと考える方にも役に立つような視点の提供にも努めたいと思います。</p> <p>&lt;授業の方法 — 対面+α方式&gt;</p> <p>この授業は対面+αの方式で行われます。</p> <p>木曜日の第3限に行われる教室での対面授業では、PPTスライドに則してその要旨やメッセージを伝えるとともに、出席者との間で議論や質疑応答を行うことを中心とします。</p> <p>PPTスライドを精読していただき、併せて講義資料を確認していれば、授業内容はよく理解できるようになっており、（就職活動などで）教室での対面授業に出席できなかったり、コロナの影響で対面授業が出来なくなった場合にも、掲げられた到達目標が達成できるようなプログラムとしてあります。</p> <p>出席登録は日曜日までのリアクションペーパーの送信をもって、私の方でコースパワー上で行います。すなわち、対面授業の出席そのものは成績には直接影響しません。</p> <p>（同時に対面授業ではPPTスライドに書き切れなかったメッセージや、全体の理解方法などもお伝えできると思いますし、皆さんからの質問などにもその場で答えられるので、対面授業への出席をお勧めしたいと思います。）</p>
AL・ICT活用	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション・ディベート／クリッカー・タブレット等ICTを活用した双方向授業／

第1回	授業形態	対面	
事前学習	シラバスをよく読んでおく。履修登録済者のコースパワー上には、講義開始日前の週末までには「本年度の受講にあたってのメッセージ」とともに、「第1回講義への事前メッセージ」、第1回の「PPTスライド」、「講義資料」（デモンストレーションスライド1）をアップロードしておきますので、一読しておいてください。（お薦め）。		1時間
授業内容	<p>&lt;事業活動とはどのようなものか&gt;            事業活動とはどのようなものかについて説明する。            とくに「ものづくり」の技術などを生かして自分で起業を行う場合、企業のビジネスに携わる場合、公的な事業に携わる場合あるいは何か重要なプロジェクトの実行に関わる場合などを想像しながら、事業は何のためにしているのか、そのような活動がうまくいくためにはどのような知識が必要か、どのような課題を解決しなければいけないかを考えながら次回以降の講義に積極的に参加できるため導入（イントロダクション）を行う。</p>		
事後学習・事前学習	コースパワーで配信された「PPTスライド」、「講義資料」等で復習を行い、リアクションペーパーを日曜日までに返信する（数行程度のものでかまいません）。翌週月曜日までに配信される「第2回講義への事前メッセージ」を読み、第2回の「PPTスライド」、「講義資料」を一読しておく（お薦め）。		2時間
第2回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;経済取引と会計&gt;            事業活動を行う上では“もの”を売買する、“人”を雇う、“お金”を受けとったり、使ったり、貸したり、借ったりするなどの様々な経済活動、経済取引を積み重ねていくことになる。            そのような経済活動をどうやって記録し、集計し、その結果をまとめるかという観点から、簡単な取引（「もの」の販売や生産など）を行う事例に即して、経済取引等がどのように会計データに集計されていくかについてのデモンストレーションを行いながら会計の基礎概念を説明し、「売上」、「キャッシュフロー」、「経費」、「収益」、「資産」、「負債」、「純資産」、「企業価値」などの会計関係のキーワード中の核ともいえる重要な会計用語の意味を理解し、各人の考察や議論の中においても利用可能なものにするための基礎知識とノウハウを提供する。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。            第2回授業の参考資料として提供される「事業運営と会計のデモンストレーションスライド2、3」を順を追って理解していくと、複雑な用語の暗記を必要することなく、簿記・会計処理の基本を「一連の手順」として習得できるようにしてあります。            この過程には少し時間がかかるかもしれませんが、翌週の授業の理解には支障はありませんので、当初わからない部分があった場合にも、時間をおいて何度か見て見ると、やがて慣れて来てよくわかるようになると思います。（質問も歓迎します）            なお、第2回授業については、対面授業で「デモンストレーションスライド」の説明をうけると、内容がより分かりやすく、今後の授業の展開も把握できると思いますので、今回、主として遠隔方式による履修を考えている方にも、今回および次回（第3回）の授業については、対面で聴講されることをお薦めしたいと思います。</p>		3時間
第3回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;会計関連情報の集計方法&gt;            事業活動の結果は、資産負債残高表（BS バランスシート）、損益計算書（PL）などの財務諸表として集計・整理されて、企業の業績を分析、理解、説明する際などに利用される。            第2回の授業を復習しつつ、経済取引の集積からBS、PLなどがどのように集計されていくのか、BSやPLの中の主要項目が何を意味するのかを説明し、経済取引に関する基本情報である会計関連情報の集計結果（会計データ）を活用して事業活動がうまく運営されるために必要な基本的な知識、思考方法などを教授する。            我が国を代表する主要企業の、決算短信、および「BS」「PL」の実例も紹介し、国際会計基準を採用しているかどうかにより、財務諸表の記述方法も異なっていることを併せて説明します。</p>		
事後学習・事前学習	前回と同様です。		2時間
第4回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;会計データの使い方(1)&gt;            会計データを使った思考方法や、BSやPLなどの財務諸表の読み方に馴染んでくると、実際にはどのようなことが分析、理解できるのか。            事業活動の成果や変化が会計データに反映され、それをもとに企業経営の今後の方針を策定したり、問題を解決することが必要になる具体的な事例をいくつか紹介しながら、会計データの使い方について解説する。            第4回は、企業業績の理解・分析の手順について（1）営業活動に伴う売上（収入）・キャッシュイン、（2）営業活動に伴う経費（支出）・キャッシュアウト、（3）利益、損失の計上、（4）BSの変化と期末のBS、（5）年間のキャッシュフロー（営業・投資・財務）の確認、に沿って解説し、BS、PL、キャッシュフロー計算書としてまとめられた財務諸表の意味をよく理解できるようにする。            併せて、企業の業績比較や、就職活動の際に志望先企業の選定などにも参考になる「決算短信の中の主要情報の比較」や、「企業の利益などのランキング」について、実際の例を紹介し、その読み方や活用の仕方について解説する。</p>		
事後学習・事前学習	前回と同様です。		2時間

第5回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;会計データの使い方(2)&gt;            第5回は企業分析で取り上げられる個別指標の例として、営業利益率、EBITDA、総資産利益率=ROA、自己資本利益率=ROE、株価収益率=PER、株価純資産倍率=PBRなどの代表的な指標がどのように計算され、分析上どのような意味を持つのかを解説する。            また、会計・ファイナンス関係の記事・書籍などで紹介される企業の業績比較分析などの例もいくつか紹介しつつ、業績の良い企業とはどのようなものかについて解説、議論し、就職活動などにおける志望先選定の参考にもなるようにする。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。            昨年度は、授業がない週を活用して就職活動においても基本的な会計データを参照として、「皆さんにとって優良と思われる企業、事業者の対象を簿り込んでいく上でのTIPS(ヒント)」についての補講をオンラインで行いました。本年度も第6回と7回の講義の間の週に、スライドと資料の配信を行う予定です。</p>		2時間
第6回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;事業の成功と失敗、リスク・困難への対応&gt;            今回はこれまでの講義で説明した、事業活動を会計的にも観察・分析する視点を生かしながら「事業が成功していく好循環」をイメージするとともに、「事業が不振に陥ったり、失敗したりして倒産に陥る場合にはどのような経路をたどり、その帰結がどのようなになっているのか」について、モデルとなるような実例をあげながら説明する。            同時に現代の経済学、経営学でも重要な基本概念となっている「リスク」について説明し、事業が順調・円滑に運営されていくために有益な知識を論じる「経営学(論)」のイントロダクションとする。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。</p>		2時間
第7回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;貨幣(マネー)、金融(ファイナンス)とはどのようなものか&gt;            経済活動は貨幣(お金)を使って行われることがほとんどであり、事業活動の成果も貨幣の額で計算され、お金がたまったり、失ったり、余ったり、不足するといったマネーに関わる事態にしばしば遭遇し、問題解決を迫られる。            同時に、貨幣の融通などを事業の柱とする金融サービス事業者が存在し、事業活動においては金融サービス事業者との取引や活用が必要になる。            今回は「マネー、ファイナンスの世界」がどのようなものかを想像・理解するのに必要な基礎知識などを、「金融取引」の概念を出発点として使って説明し、事業活動に貨幣や金融がどのように関わるのかを理解するためのイントロダクションとする。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。</p>		2時間
第8回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;事業運営とファイナンスの仕事&gt;            事業活動に則して、マネーが関わってくる局面について、経済取引の支払いと貨幣の移転(キャッシュフロー)に関する実例をスタートに、「資金調達」、「資産運用」、「資本戦略」などの基本について説明する。            さらにマネー、ファイナンスの基礎知識を使って、事業活動をうまく運営していくためにはどのようなことを理解し、考察することが必要かについて解説する。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。            昨年度は、「貨幣とファイナンス」について、いくつかの先端的な話(仮想通貨やデリバティブ取引、金融商品の理論価格など)に関心を持つ方のために、第8回講義と第9回講義の間の週にオンラインで補講を行いました。本年度もPPTスライドと資料の配信を行う予定です。</p>		2時間
第9回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;企業・事業を取り巻く環境への対応と企業戦略&gt;            企業は、似たような商品・サービスを生産・販売する事業者など、競争相手がいる中で活動を行い、そのような競争に勝ち抜き、あるいは生き残り、繁栄や高収益を実現するためにはどうすればいいかについて、経営戦略、企業戦略、競争戦略などの「戦略」が議論されて、多くの書物が書店にも並んでいる。            今回の講義では、競争的環境や変化する環境に対応して、企業は繁栄していく上では何が必要かについて、代表的な戦略論の実例を紹介して、その基本的考え方を紹介する。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。</p>		2時間
第10回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;ビジネスモデル(1) - ビジネスモデルの基本コンセプト&gt;            事業活動が、似たような事業者と異なってユニークな強みを持ち、その結果、顧客から選ばれ、売り上げが伸び、収益があがっているあるいは長期にわたって持続・繁栄しているなど競争的な優位を獲得している状況を説明する上では、ビジネスモデルの用語が最近ではよく使われていて、経営戦略論においても活用されている。            今回の講義では、ビジネスモデルの基本コンセプトについて説明し、ある企業のビジネスモデルの特徴や、その強み・弱みなどを理解する上では、どのような面に着目して、分析すればいいかにつき、会計、ファイナンスの基礎知識も活用しながら、解説する。            また、いくつかのユニークなビジネスモデルの実例を紹介し、事業活動が成功し、繁栄する上での方法も多彩であることを説明する。</p>		
事後学習・事前学習	<p>前回と同様です。</p>		2時間

第11回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;ビジネスモデル（２）－ICTやインターネットの進展と新たなビジネスモデル&gt; ICT（情報通信技術）やインターネットの発達に伴い、新たに登場、発展してきている新たなビジネスモデルについて紹介し、既存のビジネスモデルや旧来の競争的環境にも大きな変革をもたらしている状況を概観する。</p> <p>&lt;21世紀型ものづくりに関わるビジネスモデル&gt; 日本経済にとっては、21世紀においても、技術進歩や環境の変化に対応して、付加価値の高いもの（物質やサービスや情報の組みあわせ）を創出していく、21世紀型のものづくりをリードしていくような事業が活発に行われていくことが必要である。 21世紀型の環境の中で事業運営には何が求められるか、製造業もこの20－30年の間にどのような変貌をとげているか、事業を好循環に導くためにはどのようなビジネスモデルが必要かを考察する。</p>		
事後学習・事前学習	前回と同様です。		2時間
第12回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;事業運営と組織、リーダーシップ（１）&gt; プロジェクトや事業は多くの場合、一人ではなく、複数の人が力を合わせ、それぞれが役割を分担して運営される。チーム・組織をどのように編成し、その下で人材をどのように雇用・活用するかによって企業のパフォーマンス、実行力、継続性も大きく変わってくる。 今回の講義では、事業を営む上で必要な組織のあり方を理解する上で有益と思われる、いくつかのモデルを提示、考察したうえで、日本の企業に特徴的な組織モデル、最近の変化などについて解説する。</p>		
事後学習・事前学習	前回と同様です。		2時間
第13回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;事業運営と組織、リーダーシップ（２）&gt; 組織を形成して事業を行う上で発揮されるべき「リーダーシップのあり方」について理解するために必要な基本コンセプトを解説し、諸君が今後のキャリアデベロップメントを展望する上での参考となるようにする。とくに工学院大学のビジョン150の中にも掲げる「（21世紀型ものづくりの先端で、創造・発信し）事業・実務でリードできる人材（21世紀工手）」とはどのようなものか、議論したい。</p>		
事後学習・事前学習	前回と同様です。		2時間
第14回	授業形態	対面	
授業内容	<p>&lt;事業の振り返りと議論&gt; これまでの授業内容を振り返りつつ、諸君からの質問やコメントを受けて議論を行うことにより、「工学の知識やスキルを生かしながら、プロジェクトや事業を行っていくことの意義」、「事業がうまくいくためにはどのようなことが必要か」、「良い企業とはどのような事業体か」などについて、（現時点における）自分なりの見解・イメージを持って今後の就職活動や（社会人として従事する）事業活動に活かしていくことをお手伝いしたいと思います。</p>		
事後学習・事前学習	これまでの講義資料を復習し、期末試験（レポート）の準備にとりかかる。		2時間
第15回	授業形態	遠隔（オンデマンド）	
授業内容	<p>講義は12月中に完了することを目指しており、10月あるいは11月に、就職活動を行う方を念頭に習得した会計・ファイナンスの知識を使って志望先企業の選定を行ったり、事業体の中でどのような活躍・貢献をしたいのかを考える上で役立つと思われる「キャリアデベロップメントと就職活動に関するTIPS」および、マネー・ファイナンスについて、現代的な課題を理解しやすいように追加的な（若干専門性が高い）知識を解説する「マネー・ファイナンスの補講」を行い、全15回の講義プログラムとすることを予定しています。</p>		
事後学習	これまでの講義資料を復習し、期末試験（レポート）の準備にとりかかる。		1時間
成績評価の方法	<p>リアクションペーパーおよび期末レポートで評価を行い、A+～Fの6段階評価でD以上の者を合格とします。期末レポートの課題は12月中に公示し、提出期限は1月末までとします。</p> <p>リアクションペーパーと期末レポートの評価割合は概ね2：8と考えており、成績評価は期末レポートにより行いますが、リアクションペーパーの継続的な提出あるいは内容の濃いペーパーの提出は加点要素とします。例えば期末試験解答（レポート）がB評価であっても、積極的なリアクションペーパーの提出でA評価となるような場合があります。</p>		
受講生へのフィードバック方法	<p>授業の皆さんからのリアクションペーパーについては、他の受講者からの反応も見ることが出来るよう編集し、コメントを付したり、Q&amp;Aを作ったりして、翌週中にフィードバック送信することとします。皆さんからの積極的な質問やコメントを奨励しています。</p>		
教科書	<p>特に指定しない。授業前に講義メモおよび参考資料を配布し、講義内容の理解、復習および期末試験の準備が行えるようにする。</p>		
参考書	<p>読んでおくこと今後のために役に立つと思われる書籍を、授業開始時および授業中に積極的に紹介します。本講義に関連する参考文献は、新宿キャンパス2階の就職支援センターの本棚に多数配列しています。</p>		

オフィスアワー	<p>木曜10:30 ~ 13:30、新宿校舎13階（常務理事室）          メール連絡先 meetamagawa@kute.tokyo          授業内容についての質問などについては、メールでお答えするとともに、オフィスを訪ねてきて頂いたり、必要に応じてZOOMなどでの面談に応じることも可能です。</p>
受講生へのメッセージ	<p>2017年から始まった3（-4）年生向けの国際キャリア系の自由選択科目ですが、皆さんが工学院大学で学習された科学技術の知識や習得された理数系の学力を、経済社会や企業経営などにも生かしていくための橋渡し役を努め、今後のキャリアデベロップメントに貢献したいと願っています。</p> <p>現在就職活動中だけでなく、これから就職準備を本格的にスタートさせる履修生も多いと思いますので、「経済社会の中で、企業・事業者はどのような経済活動・事業」を行っているのかについての理解とともに、「事業を成功させるためにはどのようなことが必要かについてのキーワード・基本コンセプト」や、「企業の業績などを理解できるための会計・ファイナンス面での基礎知識」の習得を助け、コロナショックなどの様々なチャレンジの中でも「今後とも生き残り、発展・繁栄をとげていけそうな企業」や「皆さんが事業に参加したいと思う企業」のイメージを描いたり（志望先企業の選定や、エントリーシートの志望理由を記述する場合にも役立つと思います）、卒業後、社会人となって事業に携わる（自分で起業することを含む）場合の心構えを形成するのに役立つ授業にしたいと思います。</p> <p>前期科目の「日本経済分析入門」（理工系の学生のための日本経済の理解・観察・分析入門）とは補完的な関係にあり、経済社会と企業活動に関心のある方、就職活動の準備等に役立てたい方は両者を合わせて受講することを歓迎します。本事業の履修にあたっては前期の事業の履修や予備知識は必要ありませんが、3年生の方には、来年前期の授業の履修にも役立つと思います。</p>

実務家担当科目	実務家担当科目
実務経験の内容	<p>金融・税務関係の行政官（財務省）、国際開発金融機関の事業経営担当幹部職員、上場企業の財務副責任者、ものづくり企業の社外監査役などの経験のある教員が、会計・ファイナンスの基礎知識を活用した事業の経営に役立つ知識・体験などについて講義する。</p>

教職課程認定該当学科	該当なし	
教育課程コード	I3c/A3c	<p>教育課程コードの見方【例】 I2a（1…1群、2…2年配当、a…必修） ※ a: 必修 b: 選択必修 c: 選択          ※複数コードが表示されている場合には入学年度・所属学科の学生便覧を参照のこと</p>